

令和5年度 E I K Oデジタル・クリエイティブ高等学校水戸英宏中学校 自己評価表

目指す学校像	ひとりひとりの創造力と個性を大切にした教育を展開し、幅広い教養と高邁な識見を備え、国際社会の中でリーダーとして活躍できる人材を育成する。			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
開校に向けて、校名と教育方針を周知し、入学生の獲得に努めた。その結果、水戸本校30名、浦和校11名の入学生を受け入れることができた。 本年度の課題は、充実した授業・学校行事の実施と、新入生・転入生・編入生の獲得、卒業生の進路実現を図ることである。	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 安全で安心した学校生活を送れる環境づくりに努める。 「いじめ、暴力は絶対に許さない」との共通認識のもと、教職員、生徒、保護者が一丸となってその防止に取り組む。 挨拶、礼儀、言葉遣いを身につけた人格形成を目指す。 公共の場でマナーをわきまえた行動ができるよう指導する。 	A	
	学習習慣の確立と進路目標の実現	<ul style="list-style-type: none"> 授業に正しい姿勢で臨ませ、家庭学習を習慣化させる。 高い進路目標を立て、その実現のために継続して努力させる。 	B	
	特別活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 諸行事を通して、他人を思いやり、協力し合う心を育てる。 	A	
	安心して安全な学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の予防に取り組む。感染者または濃厚接触者が発生した場合に的確かつ迅速な対応がとれる態勢を整え、二次感染を未然に防ぐ。 大規模な自然災害（地震など）に備え、情報収集方法を確立するとともに、的確かつ迅速に指示・命令できる態勢を整える。 	A	
	国際感覚の涵養	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行やテーブルマナー講習会等を通じて、国際人として必要な資質を習得する。 姉妹校生徒との交流を通じて、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、異文化理解への積極的な姿勢を育成する。 	A	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教 務	・授業時間の確保に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 早めに出張、年休を把握して、可能な限り授業交換をする。 授業開始時刻までに教室に入り、生徒を着席させる。 	B	A コロナ禍のため、Zoom等を使用した新しい形での研修会開催が定着してきた。次年度も継続して教職員の研修機会を充実させたい。
	・保護者との連携を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況や生活状況について保護者との連絡を密に取り、信頼関係を醸成する。 学年通信を毎月発行し、学校での学習状況、生活状況、学校行事などについて保護者に報告する。 6月と12月に学級懇談会を開催し、また年2回の三者面談を実施し、保護者との情報交換をおこなう。 	A	
	・個人情報への配慮を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 個人名が記載された書類はシュレッダーを使用して処分する。 パンフレット等へ生徒氏名や写真を掲載するにあたり、事前に保護者に確認し承諾書をいただく。 	A	
	・教職員の資質向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 朝会、職員会議等において教育方針の確認をおこなったり、研修資料を配付し教職員の質的向上を図る。 茨城県私学協会、茨城県教育研修センター等が主催する研修会へ教職員を派遣し、技能向上を図る。 	B	
	・業務の効率化を図り、教職員の心身の健康を守る。	<ul style="list-style-type: none"> 校内ネットワークを整備し、ペーパーレス化や教職員間の情報共有を促進する。 教職員全員で効率的に業務を遂行できるよう、行事等の実施要項の作成・配付を早めにおこなう。 	A	
学習指導	・コロナ禍でも生徒の学びを止めない態勢を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を利用して、臨時休校時でも授業や課題学習を進められる態勢を構築する。 教室での対面授業とZoomを利用した遠隔授業の「W授業」を通年で実施する。 ICT機器を利用した個別学習指導の充実を図る。 	A	B 生徒一人ひとりの理解状況に応じて課題を提供するとともに、学習方法・取組姿勢について適切なアドバイスを与えることで学習効果の向上を図る。また、わかりやすい教材づくりへの積極的な取り組みを継続する。
	・授業に臨む正しい姿勢を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> チャイムと同時に授業開始の挨拶をさせる。 授業に集中させ、居眠り、私語等をする生徒がいないように適切に指導する。 	B	
	・授業内容の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 授業の精度を高め、わかりやすく無駄のない授業を提供する。 問題演習の時間を十分に与え、知識の定着を促進する。 電子黒板やタブレット端末を利用し、パワーポイント等を利用した視覚的教材の開発を推進する。 実験、実習の機会を増やし、体験的な学習を充実させる。 	B	
	・WT（ウイークリーテスト）で全員が70点以上を取れるよう指導する。	<ul style="list-style-type: none"> WTに向けた計画的で継続的な学習を促す。 70点以下の者を対象にパワーアップゼミを開設し、知識の定着を図る。 	B	
	・検定試験への積極的取り組みを促す。	<ul style="list-style-type: none"> 漢字テスト、英単語テスト、計算テストを毎週実施することで、基礎学力の定着を図るとともに、反復練習を習慣化させる。 検定試験対策ゼミを実施し、受験に向けて生徒の能力を伸ばす。 	B	
・自学自習の習慣を身につけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 放課後のE I K Oタイムにおいて自学自習の姿勢を涵養する。 生徒が個別に質問しやすい態勢を整える。 学習合宿を通じて自主学習に取り組む姿勢を育む。 	A		
進路指導	・生徒一人ひとりの進路目標を実現させる。	<ul style="list-style-type: none"> 高い目標を目指すよう、日頃から進路意識の高揚に努める。 二者面談、三者面談を実施し、生徒および保護者の進路希望を適切に把握する。 進路講演会を開催し、受験校選定や受験手続の理解のための情報を提供する。 進路資料の充実を図る。 	A	A 進路情報の収集・提供の強化・充実を図り、信頼性のさらなる向上に努める。首都圏難関校に関する情報提供を促進し、進路目標の達成を図る。
	・県内や首都圏の難関進学校への受験指導を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会等に積極的に参加し、情報収集を活発におこなう。 HRや進路集会で高い進路目標を持たせ、難関進学校受験に向けての学習意欲を喚起する。 模試を活用し、適切な進路指導をおこなう。 	A	
生徒指導	・安全で安心した学校生活を送れる環境づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒間の問題に対しては、教職員が適切な指導をおこない、話し合いで問題解決する習慣を身につけさせる。 通学路に教員を配置し、登下校時の交通安全を確保する。 自転車点検をおこない、乗車マナーについて講話する。 適宜校内巡回をおこない、不審者の侵入を未然に防ぐ。 「心の相談員」を配置し、生徒の心のケアを充実させる。 	B	A 一貫した指導を徹底させ、マナー向上を推進する。安全面については細部への配慮を怠らず、気づいたことから確実に処理する姿勢を継続する。
	・品位とマナーを身につけた人格形成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 教職員、来客への挨拶を励行させる。 友達を呼ぶときには名前に「さん」をつけるよう指導する。 公共交通機関利用時のマナー向上のため、HRや集会で注意を喚起する。 感謝の気持ちをもって食事をいただくよう、昼食指導に取り組む。 テーブルマナー講習会で正しい食事のマナーを習得する。 	B	
	・インターネット、携帯電話の正しい使い方を身につけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話の学校持ち込みと学校内での使用を制限し、携帯電話の必要性について考えさせるとともに、他の迷惑にならない配慮を身につけさせる。 携帯安全教室を開き、犯罪に巻き込まれないための方法を習得させる。 	A	

保健厚生	・新型コロナウイルス感染症の予防に努める。	・消毒液の配置、サーキュレーターを設置など、感染予防のための環境整備を進める。 ・手洗いうがいの励行、手指消毒の徹底、マスク着用などの啓発活動をおこなう。 ・毎日の健康観察（体温チェック、体調チェック）を実施する。 ・感染者または濃厚接触者が発生した際の対応について整備する。	A	LEBER（健康観察システム）を利用した体調チェックを活用し、体調管理への意識を高めることができた。新型コロナウイルス感染症の第5類移行後も継続して健康維持 ・健康増進への取り組みを強化する。
	・学習環境の整備に努める。	・校舎内外の美化活動の取り組みを推進する。 ・教室内の空気・照度調査、飲料水の水質検査を実施する。	A	
	・心身ともに健康的な生活習慣の確立に努める。	・保健委員による健康調査を毎朝実施し、生徒の健康状況を的確に把握する。 ・保健委員による清潔検査を毎月実施し、生徒に清潔な生活習慣の確立を促進する。 ・保健だよりを毎月発行し、健康増進のための情報を発信する。 ・内科、歯科、耳鼻科の各検診を実施し、生徒の健康状況を把握するとともに、健康増進のための適切なアドバイスを提供する。	A	
図書館	・図書室の利用者増加に努める。	・蔵書を増やしたり、定期刊行物を配架するなど、使いやすい図書室づくりをおこなう。 ・「朝の読書」を通して読書を習慣化させる。 ・受験に向けて開室時間の延長をおこなう。	B	継続して環境整備に努め、利用しやすい図書室づくりに努める。
	・図書室利用時のマナー向上に努める。	・朝、昼休み、放課後に教職員が図書室利用の監督をおこない、静粛な学習環境を維持する。	B	
特別活動	・世界的視野の育成と国際感覚の涵養に努める。	・ハワイへの修学旅行を実施し、異文化に触れ、国際感覚の一端を身につけさせる。 ・テーブルマナー講習会を実施し、世界に通じる振る舞いを身につける。 ・ワールドキャラバンを実施し、英語圏以外の世界への理解を深める。 ・希望者を対象に海外語学研修を実施し、体験的に異文化を理解し、英会話力を向上させる。 ・希望者を対象に国内研修旅行を実施し、日本の文化・歴史への理解を深めさせる。 ・姉妹校生徒との交流を図り、コミュニケーション能力を向上させ、異文化への理解を促進させる。	C	コロナ禍のため、実施を断念せざるを得ない行事が多数あった。そのような中であっても、コロナ感染予防対策をおこなうことで、修学旅行（京都・大阪）、国内研修旅行（東京・鎌倉）、テーブルマナー講習会、Zoomでの姉妹校交流等を実施することができたことは喜びである。特別活動が人間形成に大きな意味を持つことに鑑み、次年度は諸行事の安全な実施方法をさらに研究し、より多くの行事を実施したい。
	・質の高い学問・芸術に触れさせる。	・講演会を実施し、最先端の学問に触れる機会を設ける。 ・博物館・美術館での催し物について広く告知し、芸術鑑賞の機会を増加させる。	C	
	・他人を思いやり、協力し合う心を育む。	・生徒会活動、委員会活動を通して、学校行事の円滑な実施や学校美化に努めるとともに、上級生・下級生との望ましい協力関係を構築する。 ・部活動への積極的な加入を促し、さまざまな課題に協力して取り組む姿勢を育む。 ・総体等に向けて壮行会を開催し、仲間と励まし合う姿勢を育む。 ・スポーツフェスティバル、マラソン大会を開催し、団結力を高め、協力して目標を達成する姿勢を培うとともに、仲間を応援する優しさを育む。 ・文化祭でクラス自由研究を実施し、協力して課題解決に向かう姿勢を育む。	B	
生徒募集	・本校の教育方針、教育内容等について周知させるとともに受験者数を増加させる。	・学校紹介パンフレット、ポスターを作成し、本校の教育方針、教育内容等について広く知っていただく。 ・学校説明会、入試説明会を定期的に開催し、多数の来校を促す。 ・個別相談日を設け、きめ細かな対応をおこなう。 ・ホームページでの学校紹介を充実させる。 ・各種説明会においてZoomを活用し、参加者数を増加させる。	B	生徒募集活動全般について、内容・方法のさらなる充実を図る。
第1学年	・基本的な生活習慣を確立させる。	・時間厳守、校則遵守、挨拶、言葉遣いについて指導を徹底する。 ・携帯電話やインターネットの正しい使用方法について習得させる。	B	基本的な生活習慣を確立し、学習に集中するよう指導に努める。クラスメイトへの配慮ある言動ができるよう指導していきたい。
	・集団生活の中で自己を確立するよう指導する。	・望ましい友人関係を築けるよう援助する。 ・学校行事、課外授業、部活動、委員会活動などへの積極的な参加を促す。	B	
第2学年	・進路に対する意識を高める。	・進路集会を開催し、高校進学に向けてのプロセスを理解させる。 ・中高一貫連携校が主催する学校説明会に参加し、進路意識を高める。 ・医療・看護・介護に関する特別講座を実施し、学習意欲を喚起する。 ・キャリア教育に関する特別授業を実施する。	B	修学旅行は訪問先を国内に変更して実施でき、大きな収穫を得られた。一部生徒で人間関係での悩みが見られたため、きめ細かなケアを心がけていきたい。学習面・生活面双方で高い目標を達成できるよう継続して指導に努める。
	・学習や生活の場面での弛みを抑える。	・WTの得点状況、宿題の提出状況などをもとに適切な学習指導をおこなう。 ・髪型、制服の着こなし、持ち物の管理・整頓等に乱れがないよう指導する。	B	
	・修学旅行等を通じて国際感覚を身につける。	・異文化を尊重する精神を涵養する。 ・外国語習得への意欲を喚起する。 ・海外語学研修への参加を促す。	B	
第3学年	・進路目標を実現する。	・二者面談を適宜実施し、学習方法、心理面、生活面等について適切な指導をおこなう。 ・保護者との連絡を密に取り、家庭学習の励行を促進し、規則正しい生活習慣を維持させる。	A	高い進路目標を立て、安定した学習姿勢を確立するよう指導に努める。
	・最高学年にふさわしい責任ある行動を身につける。	・最高学年としての自覚を持たせ、後輩たちの模範となるような行動をとれるように意識づける。 ・学校行事、部活動、委員会活動などで下級生に対ししっかりとリーダーシップをとれるよう適宜指導する。	A	

※ 評価基準

A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない